

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇古くて新しい塩ビ製品のご紹介

■ [随想](#)

◇PVCな人生（第2回）

株式会社タイポー 代表取締役社長 平野 二十四

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇古くて新しい塩ビ製品のご紹介

昨年の11月、中部ビニール卸協同組合と中日本プラスチック製品加工協同組合の合同の60周年記念祝賀会が開催されました。今年の日本ビニール商業連合会共催の東京ビニール商業協同組合の賀詞交歓会は、組合設立60周年記念行事を併せて開催されました。西日本プラスチック製品加工協同組合も今年、60周年を迎えられます。日本では、1940年代に様々な用途で使われ始めた塩ビ製品が、試練を乗り越え、半世紀を越えて進化しています。その例の一つとして、古くて新しい塩ビ製の履物についてご紹介します。

日常生活品のサンダルや雨靴は、先に登場したゴム製に対して、耐久性を特徴として塩ビ製が使われ始めたようです。最近では、PVCニュースでも紹介された[塩ビ製レインブーツ](#)；「アマネ」のように、ファッションナブルでカラフルな雨靴の代名詞のようになっていると思います。このカラフルなデザインのレインブーツが、昨年11月末、渋谷ヒカリエに展示されました（写真①）。

これは、障害のある人たちの個性豊かな表現と、ものづくりに真摯に向き合う企業やデザイナーが出会い、魅力的なプロダクトに生まれ変わる」ことをテーマとした「[Good Job!プロジェクト](#)」の展示会で、傘、靴下やトレイなど様々な作品の一つとして紹介されたものです。会期中に、NHKおはよう日本でも紹介されていますのでご存知の方も多いかもかもしれません。レインブーツに関しては、企画・原画：たんぼぼの家アートセンターHANA、商品デザイン：前川亜希子、製造パートナー：森川ゴム工業所、ディーシーアイ株式会社の合同作品です。（同展は、2014年2月15日から17日の間、福岡でも開催される予定となっています。）



写真①
渋谷ヒカリエでの様々な展示作品

ハーフ丈のカジュアルな女性向けのレインブーツでとても綺麗でしたので、たんぽぽの家様にお子様用も新たに添えてご提供いただき、エコプロダクツ2013のVEC/JPECブースの暮らしに彩りを添えるPVC製品のコーナーでも、この作品及びプロジェクトを展示、紹介させていただきました（写真②）。



写真② エコプロダクツVEC/JPEC ブースでの展示

この作品の製造パートナーである森川ゴム工業所様では、PVC関連のインジェクション製品の企画開発、販売をするSUNBOOT/サンブートという会社を立ち上げておられ、一昨年のPVC Design Award 2012で、同社出品（森川ゴム工業所、ディーシーアイ株式会社協力製品）の「染を履く」は優秀賞を受賞されています（写真③）。従来の成型品では単色の製品しか出来ませんでした。ソフト塩ビを染める事により新たな可能性を見出した作品で、特殊な染料を筆で魂を込めて1点1点を手染めで作り上げ、一体成型のため、実用的な強度もあるとのこと、受賞後も積極的に商品展開されています。



写真③ SUNBOOT:「染を履く」

こうした試みが更に拡がり、ものづくり技術の深化、製品の進化がすすみ、塩ビ製品の歴史が今後も絶え間なく刻まれていくことを期待します。

■ 随想

◇PVCな人生（第2回）

株式会社タイボ一 代表取締役社長 平野 二十四

<平野二十四 TAIBO 入社>

パワーウインドウなんてものは論外でパワーステアリングですら贅沢なあこがれのオプションだった頃、18になった私はすぐに免許を取得し、大学に通う傍らトラックに乗ってTAIBOの納品を手伝った。実は父を手伝おうと思ったのではなく、菅原文太のトラック野郎が流行っていたのでトラック野郎を気取って見たかっただけだったのだが・・・。それにこの経験が後の仕事に役に立つことになるなどとは夢にも考えていなかった。

他にも、チャレンジ精神旺盛だった私は、シンガーソングライター、作家など色々な職業を気取って見ていたが、芸術的な職業は常にヒットを生み続けるボキャブラリーを維持し創造してゆくことがどんなに大変なものかを学び「趣味でいるうちが楽しいんだ」と早々に悟りを開いたのだった。

ただ工業デザインだけは今でもやりたくて、どうやったらプロのデザイナーになれるのかが分からず、断念したのが今でも心残りである。

そして迎えた22歳。何も考えず、とりあえずTAIBOに入社した。これが私の“PVCな人生”の始まりとなった。

愛知県豊田市曙町の交差点北西角にあったTAIBO豊田工場に赴任。父から、造った再生塩ビ（塩ビレザーを粉碎分離した粉）を売って来いと言われた。工場からできてくる“粉”を手のひらほどの袋に詰めて持ち出した。これが“塩ビ”と言うものなんだ・・・再生の・・・・。1983年の春であった。



<歩いて覚えた物性>

奈良県にあった靴底屋さんに飛び込んでみた。

平野「社長さん、うちの会社で塩ビの再生原料造っているんですが使っていただけませんか？」

社長「フーン・・・で硬度はどんだけ（どれだけ）なんや？」

平野「えーっと#\$%&@・・・調べて出直します。」

この間約3分だった。

インターネットなんてものは無い。帰ってからお願いして当時TAIBOで塩ビレザーの端材を引き取らせていただいていたバンドー化学の方に電話をしてみた。

バンドー化学の方「硬い塩ビを硬質と言い、柔らかいのを軟質と言います。」

「ガラスの硬さを100とってください。硬い物から軟らかくなるほど数字が小さくなります。下は70ぐらいまでかなあ～。その中間ぐらいのものを半硬質と呼びます。」

平野「あっ、ありがとうございましたっ！」

まるで塩ビ博士にでもなった気分になった。

数日後、先日の奈良県にあった靴底屋さんにて

平野(意気揚々と)「社長、先日は失礼いたしました。我が社の塩ビの硬度は70ぐらいです！」

社長「ふうん。で重合度は？」

平野「・・・・・・・・」

約2分。こんな調子であった。

結局、専門書を読んで覚えたのだが、それから数年間、硬度を数字で言おうとした時の半硬質の定義が誰に聞いても判らなかつたのは今でも笑える。

<バブル当来>

愛知県扶桑町から始まったTAIBOの塩ビの粉碎分離事業は、豊田市曙町の豊田工場、安城市の安城工場と、もともと和歌山で行っていた繊維のリサイクル事業ともども順調に増えていった。



繊維を集めていたテキスタイル研究所



繊維を集めていた紀北集配センター

← TAIBO 本社

※ ビルは関係有りません！ 賃貸のマンションの1階部分だけです



TAIBO 扶桑工場



TAIBO 豊田工場



豊田工場の倉庫

おりしも時代はバブルを迎えようとしていた。350 円ぐらいだった時給が、400 円、500 円と見る見る上がっていく。車関係の4次、5次下請の社長さん達は、他社に社員を取られぬよう社長が自ら社員を毎日送り迎えし、3か月に1回ボーナスを払うなど、それはそれは大変な努力をされていた。

時代はバブルに入り時給を 1000 円もくれるノーパン喫茶が流行っていた。

そんな時、ついに〇〇〇自動車の時給が 1000 円に！

零細企業はついてゆけない・・・今でも忘れられない思い出である。

結局 TAIBO は 1990 年、扶桑、豊田、安城の 3 工場を統合し岐阜に移すことにした。

<塩ビバッシング>

塩ビの主力粉碎分離工場として岐阜に工場を移した時だった。マスコミ上げての塩ビバッシング。可塑剤の環境ホルモン疑惑なんてのも飛び出す始末。

そもそも塩ビと言う樹脂は、数ある汎用樹脂の中でも群を抜いてマテリアルリサイクルのしやすい素材である。低い溶融温度、多少異物が混じっても包み込んでしまう親和性、加工性の良さ等。リサイクルの歴史も長く、利用されている量も相当なもので利用実績も安定していた。

塩ビバッシングの始まりは工業製品のリサイクルの実態を知らない誰かが、焼却処理を前提とした一般廃棄物を燃やすときに邪魔になると思ったからか。実態とそぐわない本当に迷惑な話である。TAIBO の取扱量も半減してしまった。



塩ビ工業・環境協会の
日本経済新聞の1面を使っての塩ビキャンペーン
1999年12月22日
(平野二十四 メジャーデビュー?)

<塩ビのリサイクルを振り返る>

何度も言うがこれほどマテリアルリサイクルしやすい素材はないのだ。

それが故たくさんの塩ビのリサイクル利用者がいた。

みんな、必要な性能がでて、使いやすい、安い原料だと言う意味で利用しており、リサイクル（環境）を意識していたわけではなかったと思うが。

また、塩ビの先輩リサイクラーの方々にまつわる逸話もたくさん聞かされてきた。

『おらあ～若い頃はよく2トントラックに乗って腹巻に現金を入れてスクラップ(塩ビの)を買い付けに行ったもんだ。あのころは儲かった!』

とか、

『昨日、倒産・・・したはず? の成型屋さんのオヤジが・・・今日は隣のガレージで何も無かったかのように成型している。しかもその成型屋のオヤジにやられた(支払手形が不渡りになった)はずの原料屋が、また原料を供給していて、さらにあることか夜になるとその成型屋のオヤジと原料屋のオヤジが飲み屋で楽しそうに一杯やっていた・・・???』

とか。

1990年代の塩ビバッシングは、繊維で起業してやっと再生塩ビ屋と言われる様になったTAIBOが、オレフィンにも手を出す大きなきっかけとなった。

これからが「耐乏」時代の始まりである。

(つづく)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

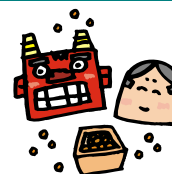
■ 編集後記

早いもので、年が明けて1か月が過ぎた話題で恐縮ですが、今年の年賀状の近況報告には、「昨年〇月に卒業し悠々自適です」とか「今年の〇〇月で退職です」、「私はまだ現役です」など、人生の節目を感じさせられるものが目につきました。という私もあと〇年ですが、今週の随想を引き込まれて読みながら、つい、自分の過去を振り返ってしまいました。

(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp